(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号
特許第7621077号
(P7621077)

(45)発行日　令和7年1月24日(2025.1.24)

(24)登録日　令和7年1月16日(2025.1.16)

(51)国際特許分類

		FI		
Ａ４７Ｋ	*3/00 (2006.01)*	Ａ４７Ｋ	3/00	D
Ａ４７Ｋ	*4/00 (2006.01)*	Ａ４７Ｋ	4/00	
		Ａ４７Ｋ	3/00	Q

請求項の数　4　（全11頁）

(21)出願番号　特願2020-154392(P2020-154392)
(22)出願日　令和2年9月15日(2020.9.15)
(65)公開番号　特開2022-48526(P2022-48526A)
(43)公開日　令和4年3月28日(2022.3.28)
審査請求日　令和5年7月3日(2023.7.3)

(73)特許権者　504163612
株式会社ＬＩＸＩＬ
東京都品川区西品川一丁目１番１号 大崎ガーデンタワー
(74)代理人　100106909
弁理士　棚井 澄雄
(74)代理人　100161506
弁理士　川渕 健一
(74)代理人　100169764
弁理士　清水 雄一郎
(72)発明者　柏田 敬一
東京都江東区大島二丁目１番１号 株式会社ＬＩＸＩＬ内
(72)発明者　森下 正彦
東京都江東区大島二丁目１番１号 株式
最終頁に続く

(54)【発明の名称】　機能ユニットの配置構造

(57)【特許請求の範囲】

【請求項１】

内部に機器が組み込まれた機能ユニットを浴室に配置する機能ユニットの配置構造であって、

前記機能ユニットは、浴槽と洗い場との間において、前記浴室の壁のうち浴槽の短辺側に配置される前記壁から離れて配置され、

前記機能ユニットを前記浴槽のエプロンに取り付ける取付部材を備え、

該取付部材は、

前記エプロンの開口部に係止する係止部と、

前記機能ユニットが係止される被係止部と、を有し、

前記被係止部は、前記エプロンよりも前記浴槽側に配置されている機能ユニットの配置構造。

【請求項２】

前記機能ユニットは、前記エプロンの前記開口部または該開口部からアクセス可能な位置に取り付けられている請求項１に記載の機能ユニットの配置構造。

【請求項３】

前記機能ユニットは、前記浴槽の長辺方向に移動可能に取り付けられている請求項１または２に記載の機能ユニットの配置構造。

【請求項４】

前記機能ユニットは、前記浴槽が配置される床の上方に配置されている請求項１から３

のいずれか一項に記載の機能ユニットの配置構造。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本開示は、機能ユニットの配置構造に関するものである。
【背景技術】
【０００２】
従来から、浴槽洗浄装置は、給水路から供給される湯水と洗浄タンクから供給させる洗剤液とを混合して洗浄水を生成し、洗浄水を浴槽に設置された洗浄ノズルに送り出す機能ユニットを備えている。
【０００３】
浴槽の三方には壁が設置され、機能ユニットはこれらの壁のうち浴槽の短辺に沿って配置される壁に取り付けられることがある（下記の特許文献１参照）。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００４】
【文献】特開２００８－３０７１６０号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００５】
浴槽と浴槽の短辺側に配置される壁との間には、ジェットバスの湯を噴出させるポンプ等の設備装置が設置されることがあり、機能ユニットと設備装置とが干渉するため機能ユニットを設置するのが困難であるという問題点がある。
【０００６】
本開示は、上記事情に鑑みてなされたものであり、他の設備装置と干渉することなく配置可能な機能ユニットの配置構造を提供する。
【課題を解決するための手段】
【０００７】
本開示の一態様に係る機能ユニットの配置構造は、内部に機器が組み込まれた機能ユニットを浴室に配置する機能ユニットの配置構造であって、前記機能ユニットは、浴槽と洗い場との間において、前記浴室の壁のうち浴槽の短辺側に配置される前記壁から離れて配置され、前記機能ユニットを前記浴槽のエプロンに取り付ける取付部材を備え、該取付部材は、前記エプロンの開口部に係止する係止部と、前記機能ユニットが係止される被係止部と、を有し、前記被係止部は、前記エプロンよりも前記浴槽側に配置されている。
【図面の簡単な説明】
【０００８】
【図１】浴室の平面図。
【図２】浴室の立面図。
【図３】機能ユニットの配置構造を示す立面図。
【図４】機能ユニットが取付部材に取り付けられた斜視図。
【図５】機能ユニットと取付部材との分解斜視図。
【図６】図４のＡ－Ａ線断面図。
【図７】図３のＢ－Ｂ線断面斜視図。
【図８】図３のＣ－Ｃ線断面斜視図。
【図９】図３のＤ－Ｄ線断面斜視図。
【図１０】浴槽の下方を示す図。
【発明を実施するための形態】
【０００９】
以下、一実施形態に係る機能ユニットの配置構造について、図面に基づいて説明する。図１に示すように、機能ユニット１は、浴室ユニット（浴室）１０に設置されるものであ

る。機能ユニット１の内部には、機器が組み込まれている。機能ユニット１は、浴槽洗浄装置の構成要素の一部であり、不図示の給水路から供給される湯水と不図示の洗浄タンクから供給させる洗剤液とを混合して洗剤液（洗浄水）を生成し、洗剤液を浴槽に設置された洗浄ノズルに送り出すためのものである。機能ユニット１の構成自体は、例えば特許文献１に記載されたものと同様である。

【００１０】

浴室ユニット１０は、建物の躯体内にフレームとパネルとを用いて、床１１、壁２１、天井（不図示）及び浴槽１３等を組み立てて設置される。以下では、浴室ユニット１０を例に挙げて説明する。機能ユニット１は浴室ユニット１０に限らず、在来工法により施工された浴室においても適用可能である。

【００１１】

浴室ユニット１０の床１１には、浴槽１３及び洗い場１９が設置されている。浴槽１３と洗い場１９とは、隣接して配置されている。

【００１２】

浴槽１３は、平面視で長方形状をなしている。浴槽１３は、利用者が入浴可能な下方に凹む形状をなす浴槽本体１４と、浴槽本体１４の周壁部の上端部から外方に延びる浴槽フランジ部１５と、を有している。

【００１３】

浴槽本体１４の外形及び浴槽フランジ部１５の外形（浴槽１３の外形）は、ともに平面視で一方向に長い略長方形状をなしている。以下の説明において、浴槽１３の長手方向をＸ方向とする。浴槽１３の短手方向をＹ方向とする。

【００１４】

壁２１Ａ～２１Ｄ（２１）は、上下方向に沿って配置されている。壁２１Ａ，２１Ｂは、浴槽１３の短手方向（浴槽１３の短辺１３ａ，１３ｂ）に沿い、Ｙ方向に延びている。壁２１Ａは、洗い場１９のカウンター１９ａ側に配置されている。壁２１Ｂは、洗い場１９のカウンター１９ａと反対側に配置されている。壁２１Ｃ，２１Ｄは、浴槽１３の長手方向（浴槽１３の短辺１３ｃ，１３ｄ）に沿い、Ｘ方向に延びている。壁２１Ｃは、浴槽１３側に配置されている。壁２１Ｄは、洗い場１９側に配置されている。

【００１５】

浴槽１３の浴槽フランジ部１５における洗い場１９側の端部１５ａには、エプロン１６が設けられている。図２（浴室ユニット１０の立面図の一部であり、洗い場１９側を省略して、洗い場１９側から浴槽１３を見た図）に示すように、浴槽フランジ部１５の端部１５ａには、下方に延びる折返し壁部１５ｂが設けられている。エプロン１６は、浴槽フランジ部１５の折返し壁部１５ｂから下方に延びるように設けられている。

【００１６】

エプロン１６は、エプロン本体１７と、エプロンカバー１８（二点鎖線）と、を有している。図３に示すように、エプロン本体１７は、板状に形成されている。エプロン本体１７の板面は、Ｙ方向を向いている。エプロン本体１７には、板厚方向に貫通する開口１７ｈ，１７ｉが形成されている。開口（開口部）１７ｈが壁２１Ａ側に配置され，開口１７ｉが壁２１Ｂ側に配置されている。開口１７ｈ，１７ｉは、メンテナンスの際の点検口として機能する。エプロンカバー１８は、エプロン本体１７における洗い場１９側を向く面１７ａに設けられている。エプロンカバー１８は、保温性を有する材料で形成されている。エプロンカバー１８は、エプロン本体１７の略全体を覆うように設けられている。

【００１７】

本実施形態に係る機能ユニットの配置構造１００について説明する。図１に示すように、機能ユニットの配置構造１００では、機能ユニット１は、浴槽１３と洗い場１９との間に配置されるとともに、壁２１Ａから離れた位置に配置されている。本実施形態では、機能ユニット１は、浴槽１３の長手方向（Ｘ方向）の中央よりもわずかに壁２１Ａよりの位置に配置されている。図２に示すように、機能ユニット１は、浴槽１３が設置される床１１の上方に、床１１と離れた位置に配置されている。

【００１８】
図３に示すように、機能ユニット１は、取付部材３を介して、エプロン本体１７に取り付けられている。機能ユニット１は、エプロン本体１７における浴槽１３側を向く面１７ｂ（図９参照）に沿って設けられている。
【００１９】
図４に示すように、取付部材３は、第１取付部材３０と、第２取付部材（係止部）４０と、を有している。取付部材３の説明において、機能ユニット１に取り付けられた姿勢での方向を用いて説明することがある。
【００２０】
図５に示すように、第１取付部材３０は、第１支持板部３１と、第１側板部３２，３３と、を有している。
【００２１】
第１支持板部３１は、板状に形成されている。第１支持板部３１の板面は、Ｘ方向を向いている。第１支持板部３１の上下方向の長さは、機能ユニット１の端面（壁２１Ａ側を向く面）１ａの上下方向の長さと略同一である。
【００２２】
第１支持板部３１の上端部には、係止突起（被係止部）３５が設けられている。係止突起３５は、延出壁部３５ａと、下向き壁部３５ｂと、傾斜壁部３５ｃと、を有している。
【００２３】
延出壁部３５ａは、第１支持板部３１の上端部から機能ユニット１側に延びている。下向き壁部３５ｂは、延出壁部３５ａの延出端部から下方に延びている。傾斜壁部３５ｃは、下向き壁部３５ｂの下端部から機能ユニット１側に向かうにしたがって次第に下方に向かって傾斜するように設けられている。
【００２４】
機能ユニット１の端面１ａの上端部には上方に突出する上部突部１ｕが設けられている。機能ユニット１の上部突部１ｕは、第１取付部材３０の係止突起３５に係止されている。図６に示すように、機能ユニット１の上部突部１ｕは、第１取付部材３０の第１支持板部３１と係止突起３５の壁部３５ｂとの間に配置されている。
【００２５】
図５に示すように、第１支持板部３１の下端部には、挿入突起（被係止部）３６が設けられている。挿入突起３６は、第１支持板部３１の下端部から機能ユニット１側に延びている。挿入突起３６には、上下方向に貫通する係止孔３６ｈが形成されている。
【００２６】
機能ユニット１の端面１ａの下端部には下方に突出する下部突部１ｄが設けられている。図６に示すように、機能ユニット１の下部突部１ｄは、第１取付部材３０の挿入突起３６の係止孔３６ｈに挿入され、係止されている。
【００２７】
図５に示すように、第１側板部３２，３３は、第１支持板部３１の幅方向（Ｙ方向）の両端部から機能ユニット１と反対側に延びている。第１側板部３２，３３は、板状に形成されている。第１側板部３２，３３の板面は、Ｙ方向を向いている。第１側板部３２には、板厚方向に貫通する取付孔３２ｈが上下方向に離れて複数形成されている。
【００２８】
第２取付部材４０は、第２支持板部４１と、折曲板部４２と、第２取付板部４３と、第２傾斜板部４４と、第２係止板部４５と、を有している。第２取付部材４０は、第１取付部材３０と固定されるとともに、エプロン本体１７の開口１７ｈ（図４参照）に係止されている。
【００２９】
第２支持板部４１は、板状に形成されている。第２支持板部４１の板面は、Ｙ方向を向いている。図８に示すように、第２支持板部４１の上下方向の長さは、エプロン本体１７の開口１７ｈの上下方向の長さよりもわずかに長い。第２支持板部４１は、エプロン本体

１７の面１７ａに当接配置されている。第２支持板部４１の上端部４１ｕは、開口１７ｈの上縁部１７ｕよりも上方に延びている。第２支持板部４１の下端部４１ｄは、開口１７ｈの下縁部１７ｄよりも下方に延びている。

【００３０】

図５に示すように、折曲板部４２は、第２支持板部４１の幅方向（Ｘ方向）の端部からＹ方向（第１取付部材３０側）に延びている。

【００３１】

第２取付板部４３は、折曲板部４２の延出端部からＸ方向（第２支持板部４１と反対側）に延びている。第２取付板部４３は、板状に形成されている。第２取付板部４３の板面は、Ｙ方向を向いている。第２取付板部４３には、板厚方向に貫通する取付孔４３ｈが上下方向に離れて複数形成されている。螺子４３ａが第２取付板部４３の取付孔４３ｈに挿通され、第１取付部材３０の第１側板部３２の取付孔３２ｈに螺合されている。これによって、第２取付部材４０と第１取付部材３０とは固定されている。図７に示すように、第１側板部３２の上下方向の長さは、エプロン本体１７の開口１７ｈの上下方向の長さよりも長い。第１側板部３２は、エプロン本体１７の面１７ｂに当接配置されている。第１側板部３２の上端部３２ｕは、開口１７ｈの上縁部１７ｕよりも上方に延びている。第１側板部３２の下端部３２ｄは、開口１７ｈの下縁部１７ｄよりも下方に延びている。

【００３２】

図５に示すように、第２傾斜板部４４は、第２支持板部４１の幅方向の端部（折曲板部４２と反対側の端部）からＹ方向（機能ユニット１側）に延びている。第２傾斜板部４４は、Ｙ方向に向かうにしたがってＸ方向に延びるように傾斜している。

【００３３】

第２係止板部４５は、第２傾斜板部４４の延出端部からＸ方向（第２支持板部４１と反対側）に延びている。第２係止板部４５は、板状に形成されている。第２係止板部４５の板面は、Ｙ方向を向いている。図９に示すように、第２係止板部４５の上下方向の長さは、エプロン本体１７の開口１７ｈの上下方向の長さよりもわずかに長い。第２係止板部４５は、エプロン本体１７の面１７ｂに当接配置されている。第２係止板部４５の上端部４５ｕは、開口１７ｈの上縁部１７ｕよりも上方に延びている。第２係止板部４５の下端部４５ｄは、開口１７ｈの下縁部１７ｄよりも下方に延びている。

【００３４】

取付部材３の第２支持板部４１はエプロン本体１７の面１７ａ側に配置され、取付部材３の第１側板部３２及び第２係止板部４５はエプロン本体１７の面１７ｂ側に配置されている。取付部材３は、エプロン本体１７をＹ方向に挟み込んでいる。

【００３５】

取付部材３に機能ユニット１が取り付けられた状態で、機能ユニット１の自重により第２取付部材４０の下端部と開口１７ｈの下縁部１７ｄとの間には所定の摩擦力が生じている。第２取付部材４０等にＸ方向に摩擦力以上の力を加えると、取付部材３に機能ユニット１は、Ｘ方向（浴槽１３の長手方向）に移動可能とされている。

【００３６】

次に、機能ユニット１をエプロン本体１７の開口１７ｈに取り付ける手順について説明する。まず、エプロン本体１７の面１７ａ側から、第２取付部材４０の第２取付板部４３の上端部及び第２係止板部４５の上端部４５ｕをエプロン本体１７の面１７ｂ側に差し込んで、第２係止板部４５の上端部４５ｕを開口１７ｈの上縁部１７ｕよりも上方に持ち上げて、第２係止板部４５の下端部４５ｄを開口１７ｈの下縁部１７ｄよりも下方に引き下げる。これによって、取付部材３の第２取付部材４０が、エプロン本体１７の開口１７ｈに係止される。

【００３７】

次に、第２取付部材４０と第１取付部材３０とを螺子４３ａで螺合する。機能ユニット１の上部突部１ｕを第１取付部材３０の係止突起３５に係止させる。機能ユニット１の下部突部１ｄを第１取付部材３０の挿入突起３６の係止孔３６ｈに係止させて、完了する。

第１取付部材３０に機能ユニット１を係止させた後に、第１取付部材３０と第２取付部材４０とを螺子止めして、第２取付部材４０をエプロン本体１７の開口１７ｈに係止してもよい。

【００３８】

図１０に示すように、浴槽１３の下面１３ｅには、洗浄ノズル２０が設けられている。洗浄ノズル２０は、浴槽１３の下面１３ｅから下方に突出するように設けられている。機能ユニット１は、洗浄ノズル２０と不図示のホースで接続されている。機能ユニット１から供給される洗浄水は、ホースを流通して、洗浄ノズル２０から浴槽１３の内部に噴出される。この洗浄水によって、浴槽１３の内部は洗浄される。

【００３９】

浴槽１３の下面１３ｅには、ノズル保護部材５が取り付けられている。工場で、洗浄ノズル２０が浴槽１３の下面１３ｅに取り付けられる。ノズル保護部材５は、工場出荷時、搬送時及び現場施工時などに、洗浄ノズル２０が損傷したり破損したりすることを抑制するものである。

【００４０】

ノズル保護部材５は、下側保護部５１と、側方保護部５２と、取付保護部５３と、を有している。例えば、ノズル保護部材５は、金属製の部材を折曲して構成されていてもよい。

【００４１】

下側保護部５１は、洗浄ノズル２０の下方に配置されている。下側保護部５１は、板状に形成されている。下側保護部５１の板面は、上下方向を向いている。側方保護部５２は、下側保護部５１のＹ方向の両端部（またはＸ方向の両端部）から立設されている。取付保護部５３は、側方保護部５２の上端部から浴槽１３の下面１３ｅに沿って延出している。取付保護部５３は、浴槽１３の下面１３ｅに接着剤、両面テープ等により固定されている。

【００４２】

このように構成された機能ユニットの配置構造１００では、機能ユニット１は、浴槽１３と洗い場１９との間において、壁２１Ａから離れて配置されている。これによって、図１に示すように、浴槽１３と洗い場１９との間において壁２１Ａに沿ってジェットバスのポンプ等の設備装置Ｐが設置されていても、設備装置Ｐと干渉することなく機能ユニット１を配置することができる。

【００４３】

上述の機能ユニットの配置構造１００では、機能ユニット１はエプロン本体１７に取り付けられている。これによって、洗い場１９側から機能ユニット１にアクセスしやすい。

【００４４】

上述の機能ユニット１の配置構造１００では、エプロン本体１７の開口１７ｈに取り付けられている。これによって、メンテナンスの際に、機能ユニット１をエプロン本体１７の開口１７ｈから取り外せば、エプロン本体１７を浴槽１３から容易に取り外すことができる。

【００４５】

上述の機能ユニットの配置構造１００では、機能ユニット１をエプロン本体１７の開口１７ｈに取り付ける際には、取付部材３の第２取付部材４０をエプロン本体１７の開口１７ｈに係止して、第２取付部材４０と第１取付部材３０とを螺子４３ａで螺合する。機能ユニット１の上部突部１ｕを第１取付部材３０の係止突起３５に係止させ、機能ユニット１の下部突部１ｄを、第１取付部材３０の挿入突起３６の係止孔３６ｈに係止させて完了する。このため、機能ユニット１自体にエプロン本体１７に固定するための加工等をする必要がなく、既存の機能ユニット１を使用することができる。

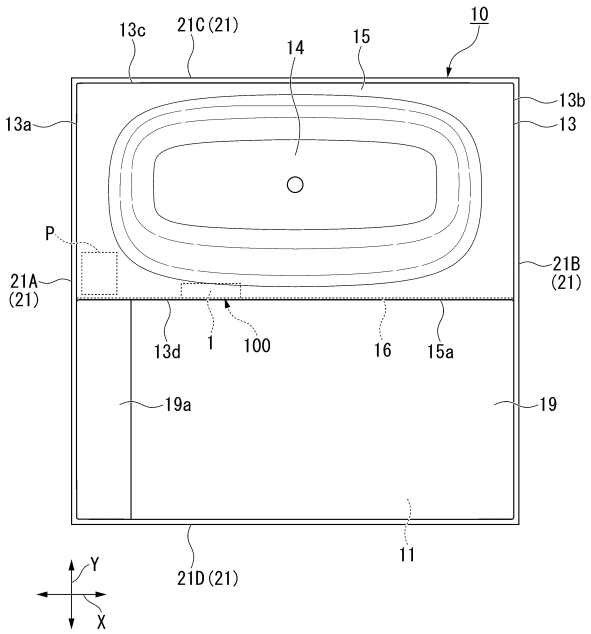
【００４６】

上述の機能ユニットの配置構造１００では、機能ユニット１はエプロン本体１７にＸ方向（浴槽１３の長手方向）に移動可能に取り付けられている。これによって、浴槽１３周りの設備装置の配置状況に応じて、機能ユニット１をＸ方向の所望の位置に配置して、機

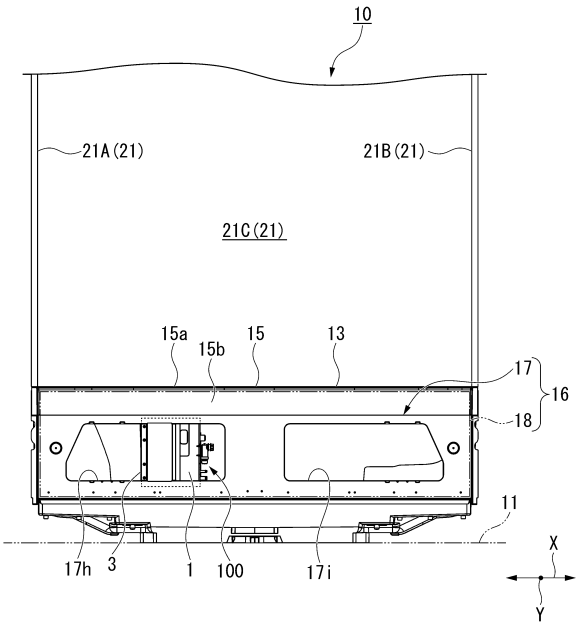
能ユニット１と設備装置との干渉を抑制することができる。
【００４７】
上述の機能ユニットの配置構造１００では、機能ユニット１は、浴槽１３が設置される床１１の上方に床１１と離れた位置に配置されている。これによって、床１１上に水が流れてきても、機能ユニット１に水がかかったり、機能ユニット１が浸水したりすることがなく、機能ユニット１の故障を抑制することができる。
【００４８】
上述の機能ユニットの配置構造１００では、浴槽１３の下面１３ｅに設けられた洗浄ノズル２０は、ノズル保護部材５で覆われている。よって、洗浄ノズル２０の損傷及び破損が抑制される。
【００４９】
上述した実施の形態において示した各構成部材の諸形状や組み合わせ等は一例であって、本開示の主旨から逸脱しない範囲において設計要求等に基づき種々変更可能である。
【００５０】
例えば、実施形態では、機能ユニット１は、エプロン１６に設けられている。これに限られない。機能ユニットは、浴槽と洗い場との間において、浴室の壁のうち浴槽の短辺側に配置される壁から離れて配置されていれば、エプロンに設けられていなくてもよい。
【００５１】
実施形態では、機能ユニット１はエプロン１６に浴槽１３の長手方向に移動可能に取り付けられている。これに限られない。機能ユニット１はエプロン１６に対して移動不能に取り付けられていてもよい。
【００５２】
実施形態では、機能ユニット１はエプロン本体１７の開口１７ｈに取り付けられている。これに限られない。機能ユニット１は、エプロン本体１７の他の開口１７ｉに取り付けられていてもよく、エプロン本体１７の開口１７ｈからアクセス可能な位置に取り付けられていたり、エプロン本体１７の開口ではない部分に取り付けられていたりしてもよい。エプロン本体１７の開口１７ｈからアクセス可能な位置とは、作業者が洗い場１９側から開口１７ｈに手を入れて届く範囲であり、例えば開口１７ｈの縁から５０ｃｍ程度の範囲が相当する。
【００５３】
実施形態では、取付部材３は、第１取付部材３０と第２取付部材４０とが螺子止めされて構成されている。これに限られない。エプロンに係止する係止部と機能ユニットが係止される被係止部とが設けられた一個の部材であってもよい。
【符号の説明】
【００５４】
１…機能ユニット、３…取付部材、１０…浴室ユニット（浴室）、１３…浴槽、１６…エプロン、１７…エプロン本体、１７ｈ…開口（開口部）、１９…洗い場、２１Ａ…壁（浴槽の短辺側の壁）、３５…係止突起（被係止部）、３６…挿入突起（被係止部）、４０…第２取付部材（係止部）、１００…配置構造

【図面】

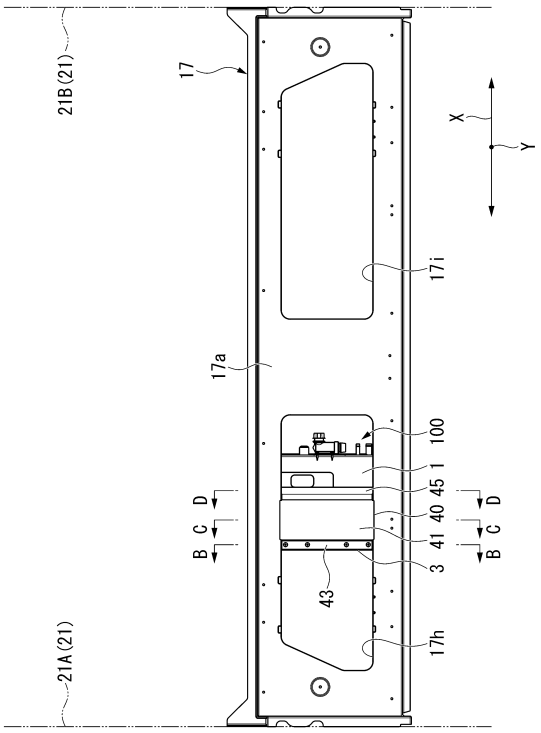
【図１】


10
13c
21C(21)
14
15
13b
13a
13
P
21B
(21)
21A
(21)
13d
1
100
16
15a
19a
19
11
21D(21)
Y
X

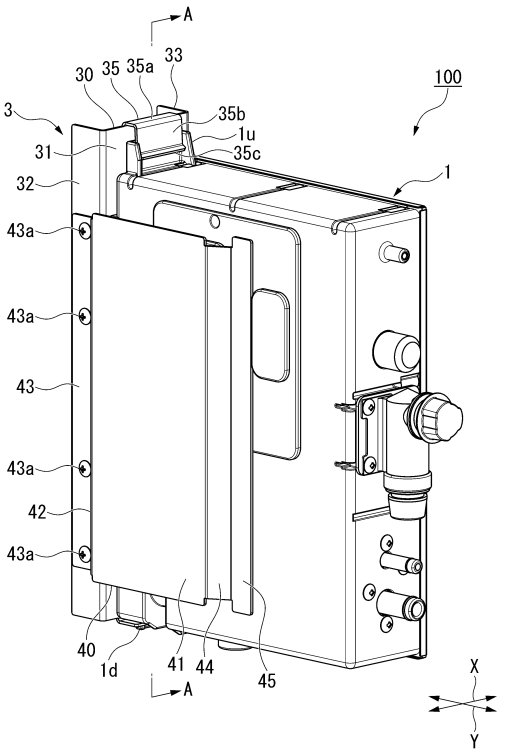
【図２】


10
21A(21)
21B(21)
21C(21)
15a
15b
15
13
17
16
18
11
17h
3
1
100
17i
X
Y

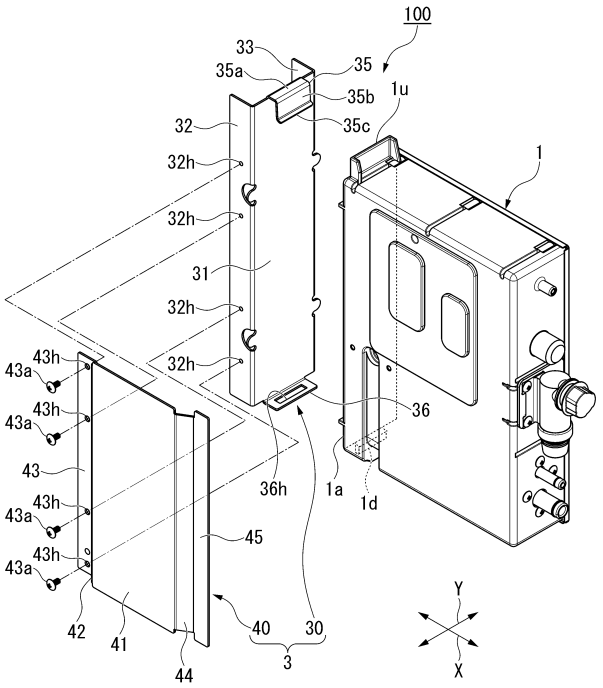
【図３】


21B(21)
17
X
Y
17i
17a
100
1
45
40
41
3
43
B
C
D
17h
21A(21)

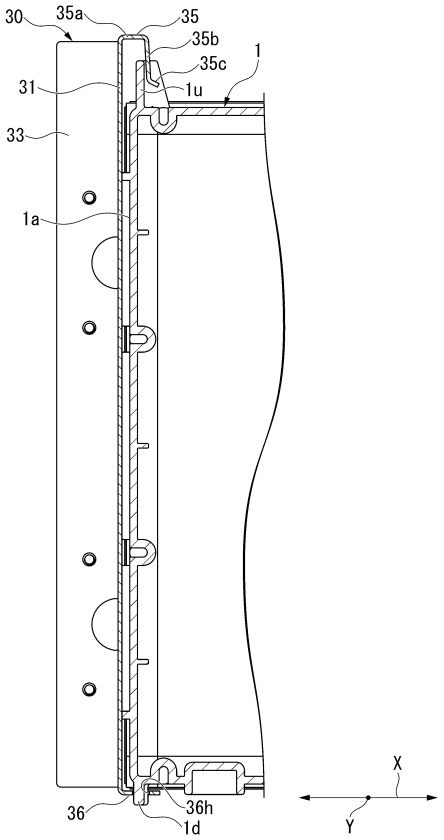
【図４】


A
30
35
35a
33
100
3
35b
1u
35c
31
32
1
43a
43a
43
43a
42
43a
40
1d
41
44
45
A
X
Y

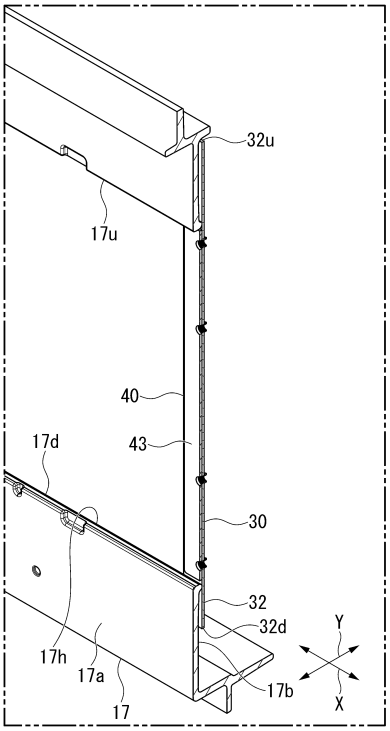
【図５】


100
33
35a
35
35b
1u
32
35c
32h
1
32h
31
32h
32h
43h
43a
43h
43a
36
43
36h
1a
1d
43h
43a
45
43h
43a
Y
42
41
40
30
44
3
X

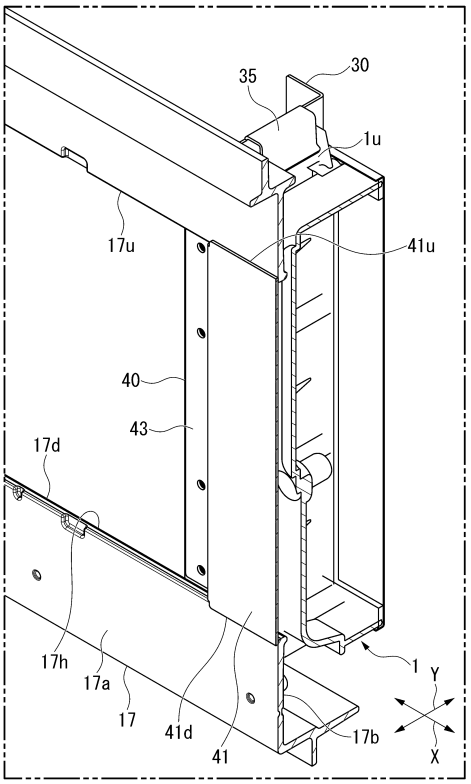
【図６】


30
35a
35
35b
35c
1
31
1u
33
1a
X
36
36h
1d
Y

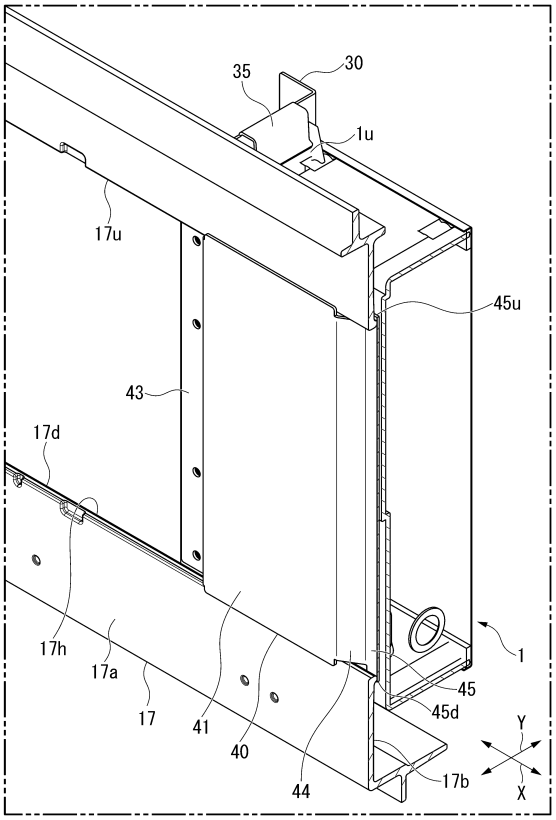
【図７】


32u
17u
40
17d
43
30
32
32d
Y
17h
17a
17b
X
17

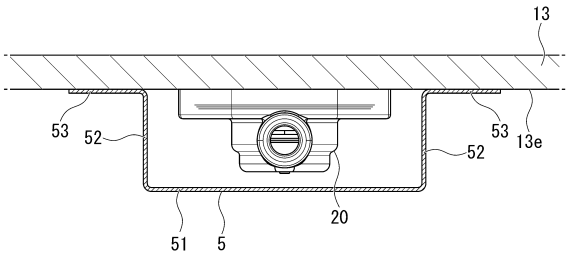
【図８】


35
30
1u
17u
41u
40
43
17d
1
Y
17h
17a
17
41d
17b
41
X

【図９】


35
30
1u
17u
45u
43
17d
17h
17a
17
41
40
44
45
45d
1
17b
Y
X

【図１０】


13
53
52
53
13e
52
20
51
5

フロントページの続き

会社ＬＩＸＩＬ内
審査官　七字 ひろみ

(56)参考文献　特開２０１６－１１９９３１（ＪＰ，Ａ）
特開２０００－３０４２９５（ＪＰ，Ａ）
実開昭６３－０５３５３２（ＪＰ，Ｕ）
実開昭６１－１３６９８４（ＪＰ，Ｕ）

(58)調査した分野　(Int.Cl.，ＤＢ名)
Ａ４７Ｋ　３／００－４／００